

2018年12月8日

流山公開教養講座 最終回あいさつ

みなさん、こんにちは。東洋学園の学園長の江澤と申します。
皆さんに参加していただいたこの公開教養講座は今回で終了することになったので、一言
ごあいさつ申し上げたいと思います。

振り返ってみれば、本学の前身の東洋女子短期大学が流山にキャンパスを開設したのが
1967年であり、奇しくも流山市制がひかれた年と同じ年で、今年で51年目、本学は半世
紀以上の長い間にわたって地元でお世話になったわけです。最初の頃は水田と湿地を埋め
立てたので雨が降るとぬかるみになり、鱸ヶ崎駅からは鉄道の枕木を敷いた道を通学した
と聞きました。その後、坂川をはじめとする治水工事で土地改良が進み、若い世代も増え
て立派な元気あふれる街に発展していることはたいへん喜ばしいことだと思います。

本学も流山に地を得て発展し、1992年に男女共学の四年制大学を開設することになったわ
けですが、本学としてはこれに至るまでの地元の流山市民の方々のご支援に感謝し、地元
に愛される大学、地元が開かれた大学を目指してきたことができます。その想いが
結実したものの一つがこの公開教養講座といえると思います。大学開設の翌年1993年か
ら今日まで、本学の教員を主体として、それに随時外部講師もお願いして、実に26年間
にわたりこの講座を開催することができました。

地元との交流という面では、このほかにも学園祭を鱸ヶ崎にちなんで鱸鱸祭と命名し、地
元の方々にも沢山参加していただいたり、エクステンションと称して語学や教養講座のク
ラスを開設して本学教員が指導に当たったり、図書館を開放して近隣の方々にも利用して
いただいたりしてきています。

流山キャンパスは緑が多く、自然豊かで時間がゆっくり流れており、教員と学生との対話
を深める上でもスポーツへ打ち込む上でも、教育の環境としては素晴らしいと思います。
現に流山キャンパスの在校生の満足度はたいへん高いものがあります。しかし、これから
新たに入学を志願しようとする学生には都心から遠いというイメージを払拭できないのが
残念です。

これらの事情を総合的に勘案して、本学では今年度2018年度から学生全員が東京の本郷
に移ることとし、流山キャンパスはテニスコートと野球場を中心として運動部が活用する
ことにしています。今後この広い流山キャンパスをどう利用するかの方針はまだ決まって

いませんが、このような状況下で、この公開教養講座も今回をもって終えることとしました。長い間本当に沢山の地元の皆様にご参加いただき、感謝にたえません。

流山市は若い世代の人口も増え、ますます発展していくものと思います。本学も本学を育てていただいた地元の流山とのご縁を大切にしながら、国際教育を中心に据えてさらなる飛躍を目指したいと考えています。今後ともよろしくご支援のほどお願いいたします。

以上